

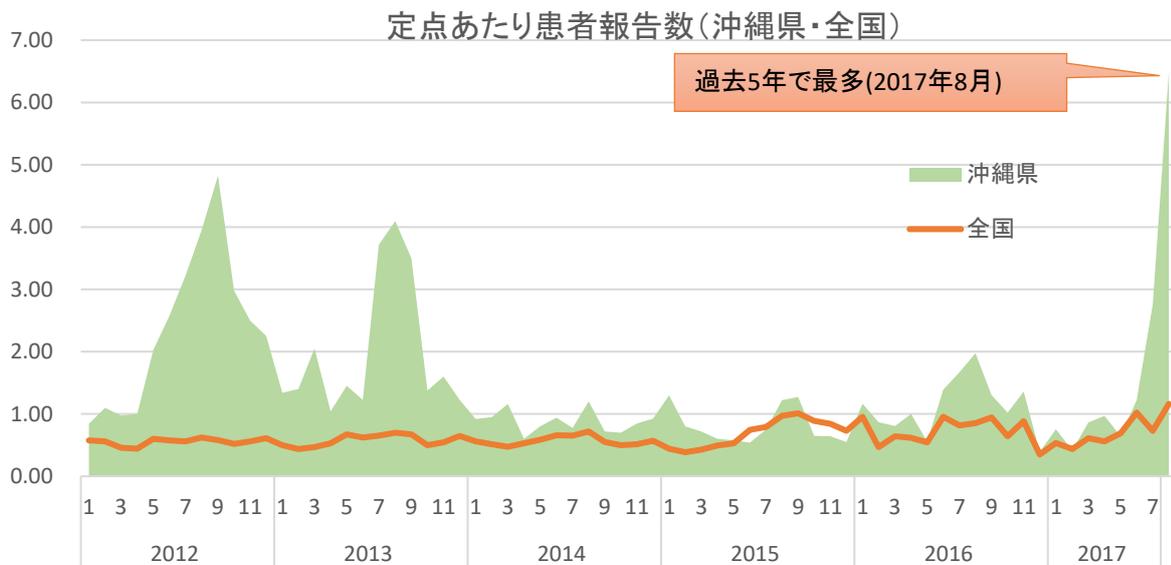
## 流行性角結膜炎の発生動向について（沖縄県）

### (1)どんな病気ですか

- 主にD種及びE種のアデノウイルスの感染後、8～14日間の潜伏期を経て、眼瞼(まぶた)の浮腫、流涙(なみだ目)、耳前リンパ節の腫脹などを特徴とする眼の感染症です。俗称で「はやり目」と呼ばれることもあります。
- 家庭内、職場、病院など人が濃密に接触する場所で流行しやすいとされています。

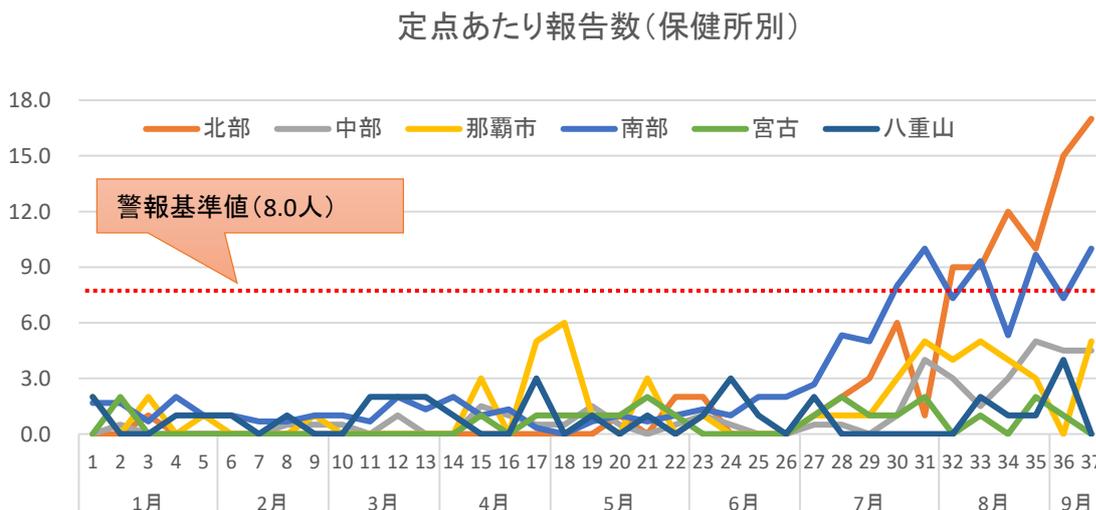
### (2)定点あたり患者報告数(県・全国)の推移(2012年1月-2017年8月)

県内においては、全国同様、夏場に流行することが多い。  
県内の2017年8月の1医療機関あたりの患者報告数は6.50人と、2012年以降で最多となっています。



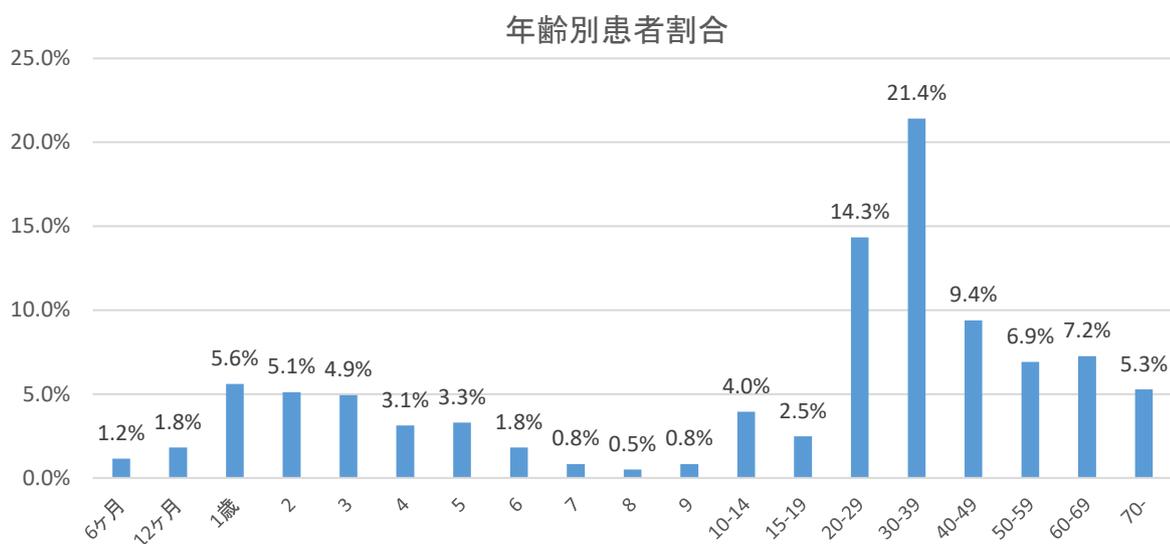
### (3)定点あたり患者報告数(保健所別)の推移(2017年第1週-2017年第37週)

2017年における1医療機関あたりの報告数について、直近の第37週(9/11-9/17)では、北部保健所管内(17.0人)と南部保健所管内(10.0人)で、警報基準値の8.0人以上を超えています。



#### (4) 年齢別患者割合(2017年第1週-第37週)

患者は幅広い年齢層に見られますが、特に1歳から3歳にかけて、20代及び30代の報告数が多くなっています。



#### (5) 治療及び予防について

治療は点眼など対症療法が主となります。目からの分泌物を介して感染するため、分泌物の適切な処分、手洗いの励行、タオルや目薬など目に接触するものの共用は避けましょう。

#### 参考

国立感染症研究所「流行性角結膜炎とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/528-ekc.html>